

「胃がん検診が変わる」講演会レポート

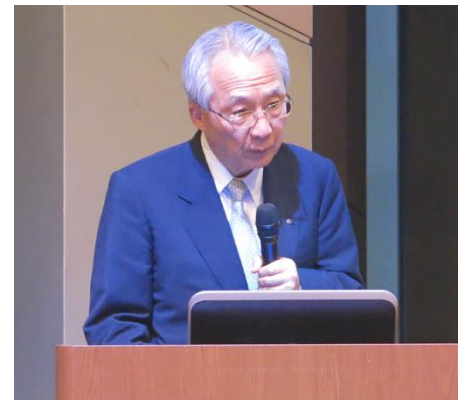
共催 一般財団法人 日本健康増進財団

認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構

協賛 株式会社LSIメディエンス・栄研株式会社

2014年7月30日、シダックスホール(東京都渋谷区)にて、日本健康増進財団とNPO共催の講演会が開催されました。今回のセミナーは、基調講演が当NPOの三木一正理事長(兼一般財団法人日本健康増進財団理事長)の「胃がん検診が変わる～胃がんは予知・予防できる～胃がんリスク検診の現状と今後の展望」、そして、小田島伸也先生(東京大学医学部附属病院消化器内科 助教)の「職域における事例報告」と続きました。

日本健康増進財団の鈴木賢二専務理事のご挨拶に続いて行われた三木理事長の講演は、胃がんで命を落とす人が5万人で1975年から変わっていないことに触れて、胃がん対策として推奨されるべき胃がん検診方式は「1次スクリーニングは胃がんリスク検診(ABC検診/ Hp抗体測定とPG法)で行い、2次スクリーニングは内視鏡(極細径や経鼻)検査」と主張。また、胃がんとピロリ菌の関係、胃がんリスク検診(ABC検診)の分類方法を紹介しながら「ピロリ菌に感染していない人を探し出して精密検査の対象から外すところが最大のポイント。救命できるがんを見つけることが大事です。死亡率減少効果だけではなく、早期胃がんの発見率に注目すべき」と説明。これまでにNPOで活動してきた研究結果や調査データも紹介しながら、胃がんリスク検診(ABC検診)の有用性について言及、最近の厚生労働省や東京都医師会の動きを踏まえ、今後「予防医療や健康経営が注目されて、データヘルス計画が進んでいる今、この検査の普及にはより一層拍車がかかるだろう」と今後の展望を語りました。



会場から運用に関する質問について出されましたが「採用するにあたっては各企業や団体が自社のシステムや組織形態に合わせた仕組みづくりに苦勞されている。NPOのホームページに掲載されている会報誌(Gastro Health Now)や先進事例に学びながら検討してほしい」と締めくくりました。

続いて登壇された小田島先生は、ご自身の経験を踏まえながら「今の若いドクターはX線検査離れが進んでいる。読影できるドクターも少なくなっていくだろう」と説明。とはいえ、全数を内視鏡検査で…となるとインフラや人材面で対応できないため、その解決策として、都内の健保組合で実施されたABC検診の事例を紹介。「リスク分類をしてA群を精密検査の対象から外すことで、内視鏡検査の該当者を絞り込めた。これはとても有効だった」と具体的な数値を示しながら、その効果を強調されていました。

